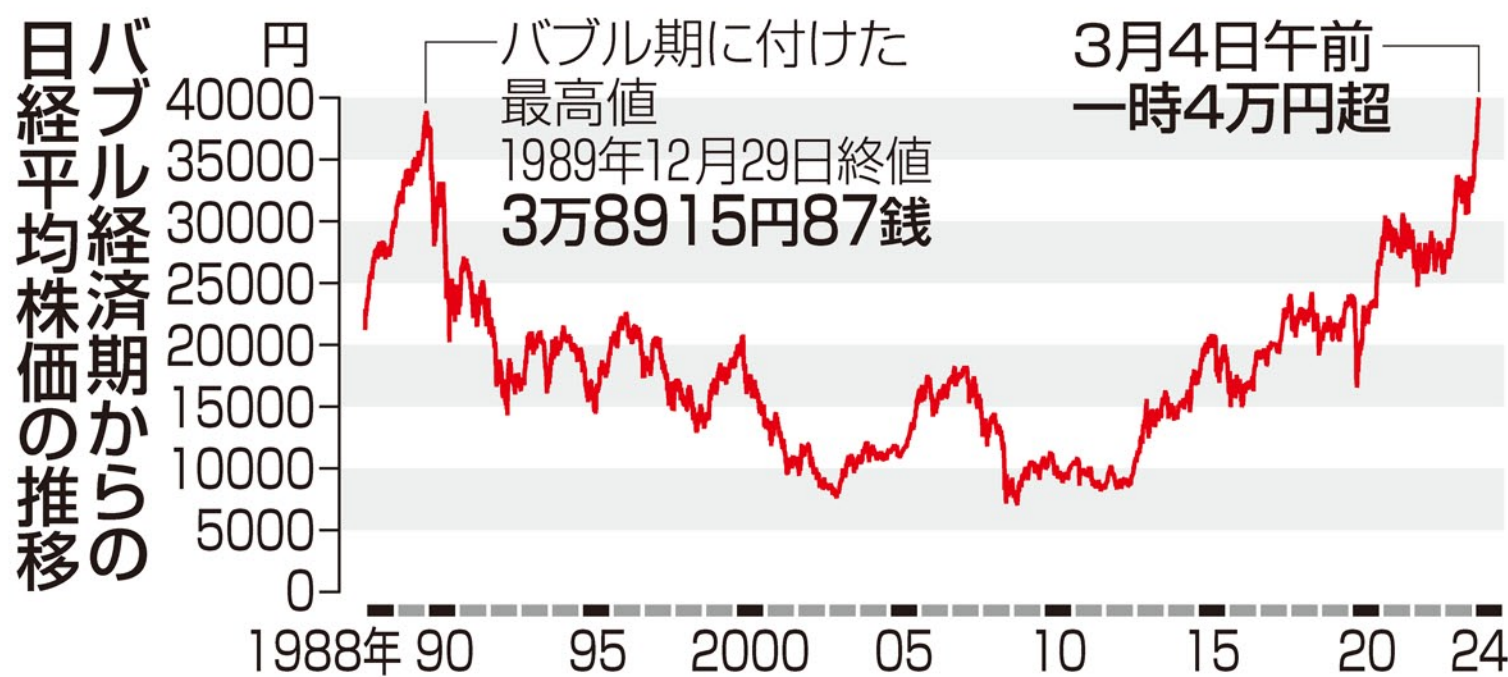


株史上初4万円超



一時、4万円を超えた日経平均株価を示すモニター＝4日午前、東京都港区の外為どっとコム



平均株価はバブル経済期の1989年末に終値で3万8915円を付けた後、長期低迷した。2009年3月にはバブル後の最安値となる7054円を記録。12年に当時の安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」が始まったのを機に上昇基調を取り戻し、とりわけ13年に日銀が導入した大規模な金融緩和策が株価を支えた。

直しへとつながった。前週末の1日に平均株価が大幅反発し、4万円まであと10円に迫る場面があった。その後のニューヨーク市場でハイテク株主体のナスダック総合指数が終値の過去最高値を更新したことも後押しとなった。

週明け4日午前の東京株式市場で、日経平均株価(225種)が一時、史上初めて4万円を超えた。生成人工知能(AI)の将来需要を見込んだ半導体関連株の値上がり相場をけん引。企業業績の拡大や日本経済のデフレ脱却に向けた期待も膨らみ、国内外の投資マネーが流れ込んだ。2月22日に、取引時間中と終値の最高値を約34年ぶりに更新した後も上昇基調が持続し、1週間余りでの大台突破となった。

今春闘で高水準の賃上げ 物価と賃金がそろって上がるとの見方が拡大。外国人投資家による日本株の評価見

半導体がけん引 業績拡大、脱デフレ期待